

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念「ゆっくり、いっしょに、えがおで」この三つの言葉で私たちの思い、あるべき姿、行動の規範を表している。また、「いっしょに」と言う部分で地域との関わり方、共に歩む地域密着型のサービスであることを表している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>月1回のやすらぎ会議で、理念や事業計画を確認する機会を持っている。また、理念実現のためどう取り組むか、自分たちがやすらぎをどんなグループホームにしたいのか、ブレインストーミングを行い意識を高めるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>職員の中でどのようなホームにしたいのかがはっきりとイメージできていない。グループホームとは？認知症の人へのケアとは？皆で勉強したり、考えたりしていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>行事を企画する場合、目的の中に交流を入れるようにしている。家族会や運営推進会議でも地域とのつながりの大切さについて話題にしている。</p>	<p>○</p> <p>さらに取り組んで行きたい。</p>
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>立地的には、住宅街とはいえないが犬の散歩や自転車での買い物のためにホームの前の道路を通る人がいる。挨拶を交わしたり、会話するように心がけている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の公民館行事に管理者が参加させていただいている。地域や町の行事に楽しんで参加している。</p>	<p>○</p> <p>さらに交流を深めたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	知症介護の相談や、サービスの窓口への紹介など。認知症講座の講師。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の勉強会を行い、自己評価はスタッフ全員で取り組んでいる。前回の結果については改善計画について皆で話し合いを行い取り組んだ。	○	常に意識して取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況、行事等の報告、評価の結果や改善の取り組みについて報告し、意見をもらったり話し合いが行われている。また、テーマを決めて話し合いが行われることもある。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員と町の担当者との交流の機会があり、サービスについていっしょに考え話し合いを行っている。町内の地域密着型施設で懇談会を持ち、ホームや地域が協力していく体制をつくろうと取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の勉強会や説明会に参加している。その内容については、職員に説明を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報として把握しているが、スタッフ全員には行き届いていない。	○	勉強会を実施し、理解を深め、防止していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の事前の面接も含めて、契約や重要事項について説明を行い同意を得るようにしている。また、契約後でもいつでも疑問な点について聞いていただき説明できることを伝えている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、担当職員の氏名、外部の相談機関について説明している。介護相談員を受け入れて、月1回訪問してもらっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケース記録を1ヶ月ごとにコピーして、まとめと共にご家族に渡している。良いことばかりが書かれたものではないが、ご家族は普段の様子がわかってよいと概ね好評である。	○ 報告が遅れないようにしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、担当職員の氏名、外部の相談機関について説明している。家族会・運営推進会議でも気になることは意見をよせてほしい旨伝えている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務の中で、気が付いたことがあればいつでも意見や提案が出来る。申し送りや、会議でも聞くことが出来る。また、「気付きノート」に書き込んで、伝えたり問題提起をし改善策について話し合いが行われている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者さんの生活時間に合わせた職員の体制となるように、意見を出し合いながら改善してきている。重度の利用者さんに職員が体力にも気持ちにも余裕を持って対応できるよう意見を聞きながら調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員がやりがいを感じられ意欲を持って働くことが出来るようにする事で出来るだけ長く勤めてもらおうと努力している。異動の場合、隣接している施設からの異動で、全く初対面と言うことは無く利用者さんが不安になる心配が少ないものと思われる。個々のアセスメント内容について把握し、交代のダメージが少なくなるように配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当職員が、新人研修の実施・OJTの計画等行っている。研修参加や、資格取得の希望を提出し、個別に計画を立てて研修を受けている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に登録しており、県やブロックの定例会に定期的に参加している。町内で地域密着型サービス事業者懇談会を立ち上げ、協力体制が出来つつある。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	どのようなことがストレスとなっているか、意見を聞いたり話し合いを行い取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を実施し個々の仕事への取り組みの状況や課題を評価、職員が向上心を持って働くことが出来るように活用している。資格取得を奨励、取得のための支援を行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初めの相談は家族等関係者からのことが多いが、本人の状況だけでなく、思いや不安について関係者と共に理解するように努めている。事前には必ず訪問し、直接話を聞いたり状態を見るようにしている。ホームや職員が本人に受け入れられるよう関係作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何に困って何が不安か良く聞き、サービス利用によって解決できること、安心できること、またリスクなど納得できるよう話し合い、関係作りに努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門医療の受診や、デイサービスなど本人にとって必要で有効なサービスについて提案し、また直接サービスにつなげられる支援をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々の状況により、何度かホームで過ごしてもらい、建物や職員・利用者になじむ機会を作り本人が納得して入居となったケース、入居して慣れるまで家族の面会を頻繁にお願いするケースなどあった。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、知識や技術を發揮してもらえる場面作りを意識して行うようにしている。認知症の進行や性格から、自発的に生活行為や役割活動が出来ない方もいる。さりげない促しが必要なこともある。教えてもらったり、いっしょに過ごす場面では感謝の言葉、挨拶など思いが伝わる言葉掛けを大切にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは本人の様子がわかるようにコミュニケーションをとるようにしている。利用者の変化に家族がまず気付くということもある。不安な点はよく話し合い安心できるように対応しているし、そのために家族が出来ることがあれば協力いただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式アセスメントにより、関係の理解に努めている。入居により関係が希薄にならないように配慮している。また、少し距離を置いたことでよい関係を保つことが出来ているケースもある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所については、本人や家族より情報を得て支援している。入居の前に利用していた床屋や美容室を継続して利用していただくなど。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルも少なくは無いが、予想できるものに関しては察知して援助し、概ね仲良く過ごすことができています。協力して家事を行ったり、弱い方に対して思いやりの言葉や、手助けする場面も見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院となって利用が終了するケースがほとんどであるが、入居の際にそのような状態になっても関係を保ち、必要な支援を行っていくことを説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、よく聞いたり観察して得られた情報を大切にしている。また、センター方式アセスメントを活用し、把握に努めている。アセスメントの際には、本人はもちろん家族からの情報も得なければならず、それがコミュニケーションを深めるきっかけともなっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式アセスメントに加え、「事例」と言う形で情報をまとめたものを記している。ホームで生活する中で、新しく得られた情報も付け加え時々見直しを行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者さんの状態は日々変化するので、記録やミーティングで確認し情報が共有できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式アセスメント・事例作成→カンファレンス→ケアプラン作成・・・と計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行う計画だが、必ずしも計画通り進んではない。変化に対しても、その時に必要な援助を検討し行っているが新たな計画作成に至ってはいない。	○	計画通り進めていく。計画の適時見直し。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、体調や暮らしの様子・ケアの状況・本人の言葉・エピソード等が日誌と個別ファイルに記録され、日々のケアや介護計画に活かされている。必要があれば、個々に観察する事柄を期間を決めて観察しケアに役立てている。日誌にて、利用者全員の情報が確認できるので勤務開始前に必ず確認するようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調不良時の通院、定期通院と、本人・家族の状況に応じ対応し健康管理面で不安が無いように努めている。 医療連携体制により健康面のケアが早期に、また適切に出来、本人・家族が満足できるように支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各機関に、広報を配布しホームの存在や状況を理解してもらえるようにしている。消防については、避難訓練・救命講習で協力してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	保健センターより歯科衛生指導をして頂いている。 本人の希望や外出が困難な方に、訪問美容室を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	町内の地域密着サービス事業者と包括支援センターとで懇談会を立ち上げ、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際には協力病院の方へかかりつけを変更される方もいるが、基本的には本人・家族の希望する医療が受けられるように、話し合いながら対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりかたについては、気が付いたことを確認し合っ て適切な対応が出来るようにしている。ケアの場面での対応 について、マニュアルもあり、利用者個々の尊厳が保たれる 対応に勤めている。勉強会で、意識向上を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で 決めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	利用者さんとはゆっくり接し、さりげない促しなどで思いや希 望が自然に表せるように対応している。本人が考えて行動す ることを大切に、その機会を職員が奪うことの無いよう配慮 している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援して いる	日課などは決まっておらず、おもいおもいに過ごしてもらっ ている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている	好きな色やファッションなど、本人や家族から情報を得て支 援している。パーマや毛染め・散髪は、希望があれば行きた い店に出掛けている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は、利用者と決めるようにしている。一緒に畑か ら収穫したり、刻んだり、味付け・味見・・・利用者さんが出来 ることは何でもやってもらい、楽しんで出来るよう職員は支援 を行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日 常的に楽しめるよう支援している	健康上問題なければ、好きなものを楽しんでもらっている。タ バコも安全に配慮して、楽しんでもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のパターン・状況を職員は把握しており、出来るだけトイレで排泄するよう誘導を行っている。また、オムツ使用者の場合夜間安心し、ゆっくり休むことが出来るように支援を行なっている。誘導の仕方、排泄時のおいなど本人の気持ち・周りの人の気持ちになってケアするよう配慮を行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は設定しているが、こだわらずいつでも入浴可能である。そのとき希望しなければ、時間をずらして誘ったり日を改めて実施している。ただ、安全に配慮し入浴介助で他の利用者の見守りに欠けるような場合は説明して対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜更かし、朝寝坊も自由である。足に浮腫みのある方、寝不足の方など様子を見て適時休んでもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方に合った役割活動を気持ち良くやってもらえるよう、さりげなく促しをしたり、感謝の言葉を掛けたりし職員は支援している。毎日の買い物、気晴らしと運動の機会となっていたり、庭掃除・草取り、米砥ぎ・・・得意なことを発揮してもらっている。囲碁・将棋や歌と個々に合った楽しみの支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持している方もいる。買い物の希望がある方に対しては、支払いを直接してもらい満足感、安心感を感じてもらえるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常接する中で、一人ひとりの希望を察知し散歩や、日光浴、ドライブと外に出る機会を作っている。なかなか希望の出ない方でも、花や畑の野菜を見たり収穫したりしようと誘うと、興味を持って楽しく戸外で過ごしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望を家族に伝えて実現したり、個別の希望でドライブに出かけたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会を捉えて支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪ねて来てもらえるように、面会時間は定めていない。気兼ねなくゆっくり過ごしてもらえるようなスペースが整っている。遠くから来た家族が、長時間一緒に過ごしていかれる場合もある。希望があれば、宿泊も可能である。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、取り組んでいる。個々のケースを検討し対応している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	所在の確認を行いながら、日中鍵はかけていない。勉強会・ミーティングで意識を高めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの能力・特徴を理解し、見守り支援している。また、いつもとは違う行動をしたり、まさかと思うことが起こりうることも予想して対応するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全に気を付け、本人のやる気や能力を奪うことの無い様支援している。危険が予想されるものに関して、目の届きにくいところに保管したり、見守りによって危険を回避するよう心がけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救命講習・防災訓練を実施している。一人ひとりのリスクを予想し、対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習・防災訓練を実施している。一人ひとりのリスクを予想し、対応している。危機管理マニュアルで、おおよその対応の仕方を確認している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の避難訓練を実施。地域の方や、隣接の施設、協力病院、利用者家族も参加して行われた。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や、変化が見られたときなど本人の状態を報告すると共に、予想されるリスクについて家族に話している。その上で、本人にとってどのような対応が最善か、家族の希望も聞きながら話し合っ対応している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子を知ることで変化にも気付くことができる。気になることは、確認し合い、看護師へ相談したり受診へつないでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からいただく説明書をファイルし活用している。薬が変更になったり、新たに処方された時は影響が無いか観察し対応している。疑問や不安に対しては、看護師や医師に聞くようにしているが、隣に薬局があり気軽に質問や相談に乗ってもらっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	観察の必要な方に対しては、チェック表をつけて観察し対応している。水分摂取や乳製品の摂取、散歩や体操で自然な通じを促すようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前には必ず口腔ケアを行っている。その他、一人ひとりに応じた援助を行っている。年に1度、口腔ケア指導を保健センターの協力で行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食の様子は毎食確認し、過不足無い様に支援している。特に観察が必要な場合は、チェック表をつけて対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、それに沿った対応が出来るように勉強会を実施している。インフルエンザ予防接種を、利用者・職員全員受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・調理器具の衛生を保つよう心がけている。食材は、新鮮なものを毎日購入するようにしている。食材の残りは確認して新鮮なうちに使用し、状態によっては処分を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口の花壇には花を植えたり、玄関周りはプランターや鉢植えを置き親しみやすい雰囲気作りをしている。手入れで利用者さんが外にいと、自然と通りかかった方があいさつしたり、こちらから声を掛けることもある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や、明りの具合、日光のさし具合が適度なものとなるよう調整している。外が見える窓が少ないので、季節感を感じられる花を飾ったり、観葉植物をおいて居心地よく過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適度に視線をさえぎって、一人や少人数でゆっくり過ごせる場所を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、馴染みのものを持参するように本人・家族に説明している。鏡台、仏壇を持ってきている方もいる。入居前の生活習慣に合わせて一部畳を敷いたり、くつろげる椅子を置いてその人なりの空間となるよう工夫している。	○	これからも馴染みの物と生活することの意義など家族に説明して取り組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇や、窓が少ないので特に換気に気をつけている。健康状態にも関係するが、その他「寒い・暑い」と不機嫌になったり心配したりするので、温度調節をこまめにするようにしている。温度計を何箇所かに設置して確認している。	○	床暖房なので、きめ細かい温度調節がしにくかったり、風通しを良くする窓もホールに無い。構造的なものなので難しいが、何とか快適に過ごせるよう改善していきたい。
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長く入居している方は、徐々に足腰も弱ってきているので、風呂場や脱衣場に手すりを新たにつけたり、転倒の危険のある方の居室に手すりをつけ転倒時の怪我予防にカーペットを敷くなど、工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかりやすい表示や目印、その位置など一人ひとりに合わせている。特徴のある暖簾をそれぞれの部屋に掛け、わかりやすくしている。いろいろな感覚が鈍くなっている利用者さんも安心してもらえるよう、見守りと必要な援助を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑、花壇、鉢植え、洗濯物干し場と楽しんで利用してもらっている。くつろいだり、休んだりできるようにベンチをとこどろに置いている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の支援を家族との関わりを大切にしながら行っている。家族会や行事へ参加・協力してもらうことはもちろんだが、利用者さんへの思いを聞いたり、必要な情報を教えてもらっている。また、ホームからは利用者の様子やケアについて報告したり話し合ったりして、利用者がグループホームで安心して生活するための連携が出来ている。

センター方式アセスメントを取り入れ、利用者一人ひとりの理解に努め、援助を行っている。  
協力病院が隣接していることと、医療連携体制により健康管理面で安心感がある。